

地域で介護予防を

サポーター育成へ研修会

前橋

地域で介護予防を実践する「介護予防サポーター」を育成する研修会が十六日、前橋市鳥取町の芳賀公民館で開かれた。県民百十人が介護予防への早期からの取り組みの重要性を学んだ。

介護予防サポーターは、介護保険制度の見直しに伴って導入される介護予防事業に協力する地域ボランティア。研修会は県と前橋市、群馬大の主催で、多くの県民に介護予防を身近に感じてもらい、地域ぐるみでの活動に結び付けるのが狙い。群馬大医学部保健学科の山口晴保教授、県栄養士の水野三千代さん



介護予防の重要性を訴える山口教授

ら四人が講演した。山口教授は介護保険の仕組みや老化の原因などを説明。「老化は防げないが遅くすることは可能」「予防が望ましいが、要介護になっても状態を悪化させないようにすることが介護予防には大

切」などと話した。主催の三者は今月末から、三回にわたって今回の参加者を対象に中級者向け研修会を開く。市は、同研修を終えた人に市の介護予防事業へ参加を呼び掛けていく。